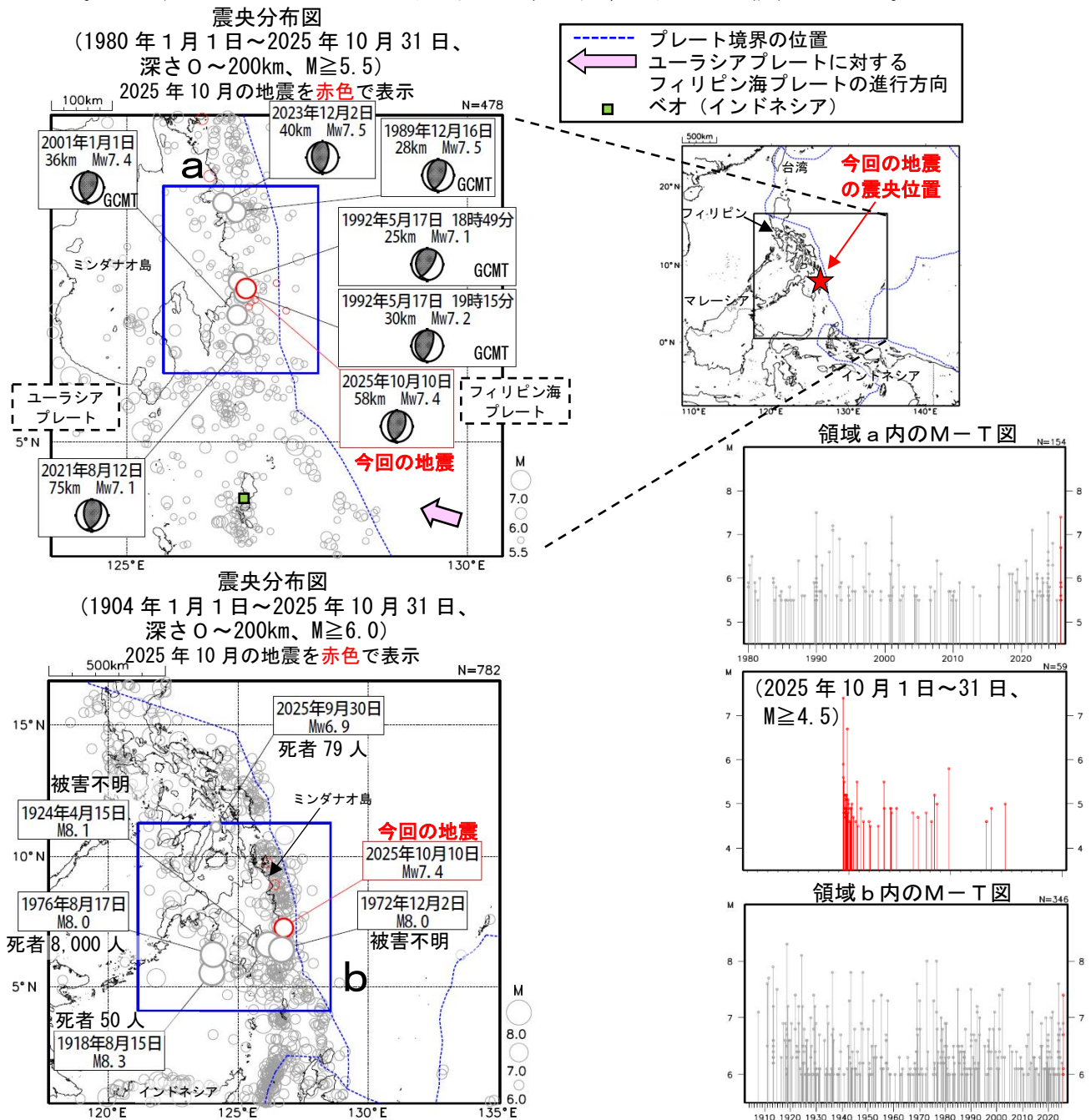


10月10日 フィリピン諸島、ミンダナオの地震

2025年10月10日10時43分（日本時間、以下同じ）にフィリピン諸島、ミンダナオの深さ58kmでMw7.4の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。気象庁は、この地震について同日11時09分に遠地地震に関する情報（日本沿岸で若干の海面変動あり）を発表した。この地震により、インドネシアのベオで0.19mなどの津波を観測した。また、この地震により、死者10人、負傷者403人等の被害が生じた。この地震の発生後に地震活動が活発になり、同日20時12分にはMw6.7の地震が発生した（MwはGlobal CMTによる）。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）ではM7.0以上の地震が時々発生している。2023年12月2日にはMw7.5の地震が発生し、この地震により、日本国内では、八丈島八重根で0.4mなど、宮城県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸、沖縄県、伊豆諸島及び小笠原諸島で津波を観測した。また、海外では、フィリピンのマウエス島で0.32mなどの津波を観測した。

1904年以降の活動をみると、フィリピン諸島周辺（領域b）では、M7.0以上の地震がしばしば発生している。1976年8月17日にはM8.0の地震が発生し、死者8,000人などの被害が生じた。



※震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12 (1904-2021)、2022年以降は米国地質調査所（USGS）による（2025年11月4日現在）。ただし、2021年8月12日、2023年12月2日、2025年9月30日、及び今回の地震のMw及び発震機構は気象庁により、それ以外の地震のMw及び発震機構はGlobal CMTによる。海外の津波の高さは米国海洋大気庁（NOAA）による（2025年11月4日現在）。今回及び2025年9月30日の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による（2025年11月4日現在）。その他の地震の被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレートの境界の位置とプレートの進行方向はBird（2003）^{*1}より引用。

^{*1}参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.